

科目名	解剖生理学Ⅲ	対象学年・時期	1年 前期
講師	非常勤講師	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>人間のからだはさまざまな組織や細胞・臓器から成り立ち、それらが正常にはたらくことで恒常性が保たれ生命を維持している。看護師は観察から対象の健康状態を判断し、からだの日常生活行動をどのように行っているのかを理解することが必要である。また、生体の構造や機能を知ることが看護技術を適切に実践するために重要である。</p> <p>ここでは、食物を摂取して消化吸収し排泄するしくみと体を支えたり動かしたりするしくみの観点から、人体を系統立てて理解し、健康と疾病、障害の理解の基礎を学ぶことを狙いとして科目を設定する。</p>		
授業形態	講義		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化管各部の構造と消化・吸収のしくみを理解できる。 2. 骨の基本構造と全身の骨、および骨のはたらきについて理解できる。 		
授業計画	<p>オリエンテーション 解剖生理学を楽しく学ぶために 授業のすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の消化と吸収(食物を摂取して消化吸収し排泄するしくみ) <ol style="list-style-type: none"> 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 (食欲、咀嚼と嚥下の過程) 2) 胃の構造と機能 3) 小腸の構造と機能 4) 大腸の構造と機能 5) 膵臓の構造と機能 6) 肝臓と胆嚢の構造と機能 7) 栄養素の消化と吸収(糖質・脂肪・蛋白質の消化と吸収) 2. からだの支持と運動(体を支えるしくみ、体を動かすしくみ) <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格とは 2) 骨の連結 3) 骨格筋 4) 体幹の骨格と筋 5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮 		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」人体の構造と機能 1 第11版 坂井建雄(他著) 医学書院		
事前・事後学修			
評価基準・評価方法	筆記試験		
備考	基礎となる分野なので休まずに受講すること		